

## 序文

放送大学が学生を受入れ、創業の本格的第一歩を踏み出そうとしているいま、最も望まれているものは、その一歩を小さくとも確実な一歩とするための確かな情報であろう。世界各国にはその国情に応じ、放送を利用した大学がすでにくつも開校されている。これらについては既刊のMME研究ノート、とりわけその第14号の海外の放送大学において詳しい紹介がなされている。そこではお隣り中国のラジオ・テレビ大学についても、イギリス、アメリカ、カナダ等のそれと並んで紹介がなされている。十一億という世界第一の人口を抱える人口大国唯一の放送を利用した大学であるからして、その扱いは至当といえる。しかし欧米の放送を利用した大学の現状について述べる文献の数が少ないのに比べ、中国のラジオ・テレビ大学に関する情報は驚くほど少なく、かつ断片的である。それゆえ編者はその一端を明かにすべく、断片的な資料を組立て、昨年MME研究ノート第7号に「中国のラジオ・テレビ大学について」という一文を草し、その紹介を試みた。それからほぼ一年、半年の在外研究員としての中国留学をへて、編者のこの方面に関する知識も多少の増加をみた。その一方比較のための比較は実際の意義が少ないことにも気づいた。そこで今回はもう少し木目細かく、各方面に互り中国のラジオ・テレビ大学の現況の紹介を試みることにした。東北三省の省レベルのラジオ・テレビ大学の相互に相違する行き方を紹介してみたのがその一であり、テキスト、雑誌並びに試験について、実物の紹介及びいまラジオ・テレビ大学のなかで主流を占めつつある考え方を知るに足る論文を選んで翻訳紹介を試みたのがその二である。ささやかな試みではあるが就いて参考にしていただければ幸いこれに過ぐるものはない。なお最後に東北三省のラジオ・テレビ大学に関する数値の多くは1984年夏現在のものであることをお断りしておきたい。

編者